

## 令和7年度 熊本県立熊本商業高等学校 学校評価計画表

### 1 学校教育目標

地域の商業やわが国の経済の発展に貢献するビジネスリーダーやスペシャリストに求められる資質、能力の育成

### 2 本年度の重点目標

○将来の目標を設定し、その実現に粘り強く取り組む能力の育成

○目標と現状との差を課題として認識し、その解決に計画的に取り組む能力の育成

○課題解決に必要な情報を収集、整理し、他者と協力してその解決に取り組む能力の育成

○将来のビジネスリーダー、スペシャリストに求められる資質、能力の基礎となる力(知識・技能、思考力・判断力、表現力等)の育成

#### 【行動指針】

果敢に挑戦し、失敗に学び、そして成長する

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題 学校評価アンケート(4件法) 授業評価アンケート(4件法)熊商デパートアンケート 100点法
大項目	小項目					
学校 経営	学校の教育目標 日々の教育活動 (教育スローガン) の達成に努める。	・運営委員会や職員 会議等において、定 期的に諸活動の状況 を確認及び検証す る。	・新たな学びのスタイルに即した、時代に合 わせた教育活動を実践し、生徒及び保護者 による教育活動の満足度を平均3.5以上と する。	・調査中心の評価からの脱却と学習評価の充 実。 ・効果的な午前中授業等の実施。 ・計画的なシラバスの活用。 ・行事の見直し。	B	・各行事等における目標に、学校の教育目標を反映させて実施することができた。 ・各行事等の評価、検証にアンケート等を活用し、その結果を職員会議等で共有し、改善の方向性を確認することができた。 【学校評価アンケート】 1校訓・教育目標の実践 (生)3.4(+0.1)(保)3.4(+0.1)(職)3.2(-0.1) 8学校行事の充実(生)3.5(±0)(保)3.7(±0) 19入学して良かった(生)3.6(+0.1)(保)3.8(±0)
	熊本県の商業高 校の拠点校として の指導的役割を 果たす。	・全領域で学校活性 化に向けた取組や組 織の検証を行い、改 善を図る。	・キャリア教育、探究的な学びの充実と商業 高校としての専門性の深化を図る。	・ICT等を活用した教材の共有化。 ・教育課程の組織的な検証。 ・県商研と連携した取組の充実。 ・HPを活用した積極的情報発信	B	・総合的な探究の時間において、商業の専門性を生かした探究的学習プログラムを展開し、一定の成果を確認できた。 【学校評価アンケート】 1学校の教育目標の実践(生)3.4(+0.1)(職)3.2(-0.1) 5キャリア教育の充実(生)3.5(±0)(職)3.2(±0) 【授業評価アンケート】 探究学習(生)3.17(職)3.00 【熊商デパートアンケート】 熊商デパートを通して、自己の成長を実感したか。(生)81.6(+0.4) 働くことの意味や大切さ、責任感をもって業務に取り組めたか。(生)81.4(+1.1)
	業務改善、働き方 改革の視点から 校務分掌、学校 行事等を見直す。	・職員が業務の効率 化を意識する。 ・職員が勤務時間や 健康管理を意識した 働き方を意識する。	・職員の時間外勤務時間を月平均2時間以 上削減する。 ・職員の年休取得平均を年15日以上とす る。	・拡大学年会の実施。 ・ICTを活用した教材等の共有化。 ・行事の精選。 ・部活動指導の交代制を促進。 ・部活動方針の周知と遵守。 ・会議の継続的な見直し。	B	・日課見直しの定着、会議の精選、ICTやAIの活用等を推進し業務の効率化を推進することができた。 【勤務状況】 1月あたり平均時間外勤務時間 31:53h(-2:13h) 年休取得平均 13.3日/年
	学校・保護者・地 域社会等の連携 とその充実を図 る。	・学校の教育活動全 般について積極的に 情報を発信する ・地域社会等の理解 や協力を得た探究的 な学びの場面を増や すことで、学校の活 性化に繋げる。	・HPのリニューアルを行い、ブログの更新を 1割以上増やす。 ・学校評価アンケートのHP閲覧の項目を平 均3.0以上とする。 ・外部講師や地域資源を活用した取組み を15回以上行う。	・HPの積極的な更新。 ・報道機関への情報提供。 ・すぐるを活用した適切な情報発信。 ・防災センター等、近隣施設の積極的活用。 ・総合的な探究の時間の推進。 ・外部資源の積極的な活用。	B	・HPのリニューアルを行うとともに連絡アプリ「すぐる」による配信を行うことで効果的な情報発信を行うことができた。 ・外部の関係機関と連携することで外部資源を活用した教育活動を行うことができた。 【HPのブログ更新】 概ね週1回以上の更新をすることができた。 【学校評価アンケート】 16ホームページの閲覧(生)2.4(+0.3)(保)2.9(+0.1) 【外部講師等】 25回以上の招聘

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題 学校評価アンケート(4件法) 授業評価アンケート(4件法)熊商デパートアンケート 100点法
大項目	小項目					
学力向上	探究的な学びの推進を図る。	学校全体での意識改革と仕組みづくりを目指す。	・総合的な探究の時間だけでなく、各教科の学習活動において、「探究的に学ぶ姿勢の育成」を意識して取り組む職員を増やす。	・「探究的な学び」についての校内研修の計画および実施 ・地域の課題をテーマとした探究活動や、地域の企業や大学との協働的な学びの推進	B	・授業評価に探究学習の項目を追加することにより、各教科において探究学習に取り組む意識付けを高めた。探究学習の効果を実感できるような振り返りの工夫必要。 【学校評価アンケート】 7自発的学習(生)2.9(±0) 【授業評価アンケート】 探究学習(生)3.17(職)3.00
	授業内容の充実を図る。	指導と評価の一体化を意識した授業づくりを行う。	・3観点における評価のバランスを意識し、評価方法の工夫に努めさせる。	・単元ごとの学習目標の明確化 ・評価項目の事前提示 ・振り返りの工夫 ・公開授業及び授業評価の実施 ・教科主任会を活用した授業研究の推進	B	・公開授業(7月、10月)および授業評価(7月、12月)を実施した。10月に実施した研究授業では、指導と評価について、教科会で協議し、授業研究に取り組んだ。来年度は、各教科だけでなく、全職員での研修の実施したい。 【学校評価アンケート】 (生)6学習指導3.6(±0.0) (職)6学習指導 3.2(+0.0)
		ICTを活用することで、授業の質の向上を図る。	・生徒がICTを活用する学習活動を積極的に取り入れ、生徒が主体的・協働的に取り組めるようにする。 ・ICTを活用した授業実践ができる教員を90%以上とする。	・ICTを活用した授業実践の職員研修の実施	A	・日常の授業においてICTを活用している状況であり、授業評価の質問項目において、最も高い数値であった。90%以上の教員が授業で活用を日常化している状況である。今後は、学びを深めるための活用について推進していきたい。 【学校評価アンケート】 6学習指導(職) 3.2(±0.0) 【授業評価アンケート】 ICT活用(職)3.5
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の視点に立った基礎的・汎用的能力を育成する。	生徒に進路決定と将来の目標を見出させる指導を行う。	・生徒一人一人が社会における自己の役割を認識し、自己の能力や適性、可能性に気づき、生涯の人生を見通した中で進路について考えさせる。 ・学校評価アンケートにおいて、生徒のキャリア教育への満足度を3.5以上とする。	・進路LHRや集団進路指導、進路だより等で、社会の情勢や人間としての在り方、生き方を踏まえた幅広い情報を提供する。 ・進路ノートの活用を工夫する。	A	・集団進路指導、進路ガイダンス等を適切に実施できた。 ・進路ノートの活用が向上した。 ・進路LHR計画が手薄になった。 ・ICTを活用した活動記録を活性化させたい。 【学校評価アンケート】 3進路情報の提供 (生) 3.6(±0)、(保) 3.3(+0.1) 5キャリア教育の充実 (生) 3.5(±0)
		学習をはじめとする諸活動の“意味”を、将来とのつながりの中で理解させる指導を行う。	・各教科をはじめ教育活動全体を通して、知識や経験の汎用性を実感させ、自己実現に向けた活動につなげる。	・生涯に渡る生活の中で、今の学びがどのように生きてくるのかを意識した授業展開を工夫する。 ・人間としての在り方生き方を踏まえた諸活動の意味を教師が丁寧に語り、伝えるように工夫する。 ・進路行事を通して、学びの継続性や将来の自己の可能性について考えさせる。	A	・授業やLHR、部活動や委員会活動等、すべての教育活動を通して、人間としての在り方生き方を語ることが実践された。学校行事、合格体験談を聞く会などを通して、上級生から下級生への学びの橋渡しを行うことで自己の振り返りや目標改善を行うことができた。外部講師の活用を行い、職業に関するより具体的な学びを実践することができた。 【学校評価アンケート】 5キャリア教育の充実(生) 3.5(±0)、(保) 3.3(+0.1)
	生徒一人一人の進路実現を支援する。	生徒の能力・適性を把握した適切な支援により、進路目標の実現を図る。	・生徒一人一人の進路決定までの過程を大切にし、就職・進学ともに考えさせる指導を工夫する。 ① 就職内定率100%を達成する。 ② 国公立大学合格者20名以上を目標の核とし、大学進学者数を100名以上にする。	・進路面談の機会を確保し、生徒の進路の悩みに丁寧に対応し、必要な支援を行うことで、生徒が目標を高く持ち、自己の可能性を切り拓くために意欲的に進路決定に取り組むように導く。 ・各試験対策として進学・就職・公務員の特別講座を実施する。 ・全職員による面接指導・小論文指導を行う。	B	・民間就職希望生徒の内定率100%、公務員希望生徒の内定率81%、国公立大学進学者14名、大学進学者数134名となった。丁寧な個別面談と全職員による面接指導、小論文指導、特別講座による指導など効果的に行うことができた。 ・自己の可能性を切り開こうと意欲的に高い目標を掲げてチャレンジする生徒も見られた。 ・就職1次試験で不調だった生徒が10人で、昨年度よりも6人増加した。 【学校評価アンケート】 4適切な進路指導(生) 3.6(+0.1)、(保) 3.3(+0.1)

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題 学校評価アンケート(4件法) 授業評価アンケート(4件法) 熊商デパートアンケート 100点法
大項目	小項目					
生徒指導	外面的生徒指導の充実を図る。	規範意識の高揚を図る。 個に応じた多様な指導支援に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間厳守を徹底する。</li> <li>・校則を遵守する。</li> <li>・情報モラル教育の充実を図る。</li> <li>・配慮を要する生徒の確実な把握。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校指導、遅刻指導を充実させ、遅刻者数の減少を図る。</li> <li>・整容検査を適宜実施し、違反者減に努める。</li> <li>・携帯電話のマナーや適切な使用方法について、学期に1回全体指導を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻数は昨年度から18%減少した。携帯電話の使用については、企画した全体指導に加えて、全職員による時機を見た指導を行っているが、一層のマナー・モラル指導が必要である。</li> </ul> 【学校評価アンケート】 2生活指導(生)3.6(±0) 14情報モラル教育(生)3.5(±0)
		交通安全並びに自転車の盗難防止に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車運転マナーを徹底する。</li> <li>・自転車の二重ロックを徹底する。</li> <li>・ヘルメット着用100%とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係職員及び交通委員による安全点検、校外指導を行う。</li> <li>・ヘルメット着用啓発を交通委員会とともに定期的に呼びかける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車通学性のヘルメット着用を義務付けた。着用率100%に向けて継続的に指導する。交通安全については、多面的に意識の高揚を図りたい。</li> </ul> 【学校評価アンケート】 19交通安全等(職)3.4(±0)
	内面的生徒指導の充実を図る。	不登校・問題行動を起こす生徒への適切な対応に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校や問題行動の兆候を見逃さず早期把握に努め、学年をはじめ、健康相談部・保健部及びスクール・カウンセラーと連携を図り、課題を解決していく。</li> <li>・職員全体の共通理解のもと適切な指導を行う。</li> <li>・「命を大切にす心」を育む指導プログラムの取組を通して、命の大切さを常に意識した判断や行動ができる生徒の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナー・モラル教育を実施する。</li> <li>・全校集会時において、思いやりの心がいかに大切であるかを生徒に訴えかけ、心の教育の充実を図る。</li> <li>・担任と生徒との二者面談を行い、生徒個々の内面を聞き出す。</li> <li>・生徒会主催の「心のきずなを深める集会」を実施し、「怒」の心を育成する。</li> <li>・各教科、ホームルーム活動や全校集会、講演会、組織的系統的に各取組を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不適切な言動を指導する場面が増えたが、生徒の訴えや日常での観察において早期に適切に対応できた。なにげない言葉に思い悩んだ生徒は少なくなかった。健康相談部やスクールカウンセラーと協力して該当生徒の心の健康回復に努めた。さらに、人権教育とも連携して、学級ごとに努力目標を掲げて人権意識の高揚にも努めた。</li> </ul> 【学校評価アンケート】 13悩みや相談への対応(生)3.5(±0) (職)3.1(-0.2)
	校門一礼を促し、さらに愛校心を育てる。	・風紀委員と連携を図り、自然な一礼の雰囲気づくりを行い、100%を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月10日に調査を行い、全校生徒に発信していく。</li> <li>・育友会との連携を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査では90%以上の生徒が校門一礼を実践している。</li> </ul> 【学校評価アンケート】 1校訓教育目標の実践(生)3.4(+0.1)	

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題 学校評価アンケート(4件法) 授業評価アンケート(4件法)熊商デパートアンケート 100点法
大項目	小項目					
人権教育の推進	「差別やいじめを許さない、見過ごさない」ための人権感覚の向上を図り、人権を尊重する学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不合理な差別に気付き、指摘する力をつける。</li> <li>・年間の人権教育を通して、様々な差別とたたかう人の生き方や思い、個々の尊厳などを学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒会人権委員会(生徒)」の活動をさらに充実させる。</li> <li>・「人権教育推進委員会(職員)」の活動をさらに充実させる。</li> <li>・各学年の人権LHRを体系的に実施し、生徒の人権意識の向上を図る。</li> <li>・学校評価アンケートの人権が尊重された教育環境の構築の項目を平均3.0以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎生徒人権委員会による取組</li> <li>・朝の放送による啓発活動を行う。</li> <li>・委員会内で人権学習に取り組み、各クラスへのフィードバックを図る。</li> <li>・文化発表会で、生徒全員の人権意識啓発につながる発表を行う。</li> <li>◎人権教育推進委員会での取り組み</li> <li>・生徒人権委員会活動の検討・職員研修(外部研修)参加の呼びかけ</li> <li>・職員研修(校内研修)の内容を吟味</li> <li>・人権LHRの内容を吟味し、より効果的なものとするため、主任と各学年の人権担当職員、及び学年団の連携を密に図る。</li> <li>◎人権LHRでの取り組み</li> <li>・外部講師の招へいや人権関係動画の視聴を通して、当事者の思いに触れる。</li> <li>・生徒の感想、職員の感想を集約し、共有すると共に、より効果的な方策を検討する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送の回数は数回と少なかったが、標語作成や講演会への案内などを通して全校生徒の人権意識を高めることにつながった。</li> <li>・人権委員会で3回の学習会(講演会と動画視聴)を行い、人権課題について理解を深めることができた。また、テーマを決め、調べ学習を行い、それをレポートとしてまとめたものを文化発表会で展示し、人権意識の高揚に寄与することができた。</li> <li>・アンケート項目「人権が尊重された教育環境の構築」は3.3であり、目標を達成できた。</li> <li>推進委員会を定期的(週1回)に実施し、人権LHR等の事前打ち合わせをしっかりと行うことで、円滑な人権教育の実施を図ることができた。</li> <li>・外部講師を活用(3回)することで、より深い学びへとつなげることができた。</li> </ul> <p>【学校評価アンケート】 22人権教育の視点からの教育環境の構築(職)3.3(+0.1)</p>
	「言わない・書かない・提出しない」取り組みを通して、すべての生徒の進路保障を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年時の人権LHRや面接指導等を通して生徒への意識付けを強く図る。</li> <li>・「進路保障」に向けた、早期段階からの意識付けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公正な選考の妨げとなる質問や不適切な記述、書類提出を求められた際に、毅然とした態度で対応できるようになるとともに、将来、自分が差別する側にならないための意識付けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生に向け、2回の人権LHRを実施する。</li> <li>・進路指導部と連携して面接指導時の内容を吟味し、生徒へしっかりと伝える。</li> <li>・1年生に向け、中学時の「進路保障」に関する人権学習の実施調査を行い、就職差別に対してどれだけ意識を持っているか把握する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月(全体)・9月(各クラス)と2回の人権LHRが実施できた。</li> <li>・スライドや資料等を進路指導部にも確認してもらい、内容の充実を図ることができた。</li> </ul> <p>【学校評価アンケート】 4適切な進路指導(生)3.6(+0.1)</p>
	命を大切にし、心のきずなを深める取り組みを充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士における仲間づくりを推進し、学校における差別事象をなくす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権標語の作成を通して、他者を思いやると共に、自己の尊厳を大切にし、自信を持って生きる心を育む。また、他者の標語に触れることで、思いや考えを共有することにつなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が標語を作成し、人権に対する自分の思いや考えを表明する。</li> <li>・作成した標語をクラスで共有し、他者の思いに触れる。また、クラス代表標語を選出し、掲示することで学校全体での共有やクラスの連帯を強めることにつなげる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送の回数は数回と少なかったが、標語作成や講演会への案内などを通して全校生徒の人権意識を高めることにつながった。</li> <li>・人権委員会で3回の学習会(講演会と動画視聴)を行い、人権課題について理解を深めることができた。また、テーマを決め、調べ学習を行い、それをレポートとしてまとめたものを文化発表会で展示し、人権意識の高揚に寄与することができた。</li> <li>・アンケート項目「人権が尊重された教育環境の構築」は3.3であり、目標を達成できた。</li> <li>推進委員会を定期的(週1回)に実施し、人権LHR等の事前打ち合わせをしっかりと行うことで、円滑な人権教育の実施を図ることができた。</li> <li>外部講師を活用(3回)することで、より深い学びへとつなげることができた。</li> </ul>

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題 学校評価アンケート(4件法) 授業評価アンケート(4件法)熊商デパートアンケート 100点法
大項目	小項目					
いじめの防止等	いじめを許さない学校づくりといじめを「しない」「させない」生徒の育成を図る。	いじめの早期発見に努めると共に、お互いを思いやり、自他の生命を大切にすることを育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの兆候を見逃さず、定期的なアンケートや個別面談等を通して、早期把握に努め、学年、健康相談部と連携し組織的な対応を行う。</li> <li>家庭との連携を深め、協力体制を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校で定めた「いじめ防止基本方針(改訂版)」に基づき組織的に対応する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任の先生を中心に生徒を見守り、いじめを見逃さないように取組んだ。いじめ防止対策委員会等において情報共有し、職員間でも連携を図りながら対応がした。SCやSSWiに協力・助言を頂きながら対応した。</li> <li>担任を中心に生徒を見守り、いじめを見逃さないように取組んでいる。いじめ防止対策委員会等において情報共有、連携を図りながら対応している。更にスクールカウンセラーや専門家の助言を頂きながら指導していきたい。</li> </ul> 【学校評価アンケート】 13悩み相談 (生)3.5(±0)、(保)3.2(±0)、(職)3.1(-0.2)
		いじめ防止等の年間計画に基づいた取組を実施する。	いじめのない学校づくりに生徒の主体的な参画を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会による「いじめをなくす」ための校内放送等を活用し、生徒たち自身が話し合い、意見を出し合う中で、いじめを無くす集団を育てる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの問題に向き合う機会とするため、いじめ防止の標語作成に取り組み、各クラス代表の標語を掲示した。</li> <li>生徒会によるいじめ防止の啓発活動ができた。学校全体としていじめ防止のための標語作成に取り組んだ。</li> </ul> 【学校評価アンケート】 13悩み相談(生) 3.5(±0)
	いじめの防止とともに、深刻な悩みや課題を抱えている生徒の支援を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>気になる生徒の早期発見に努めるとともに、生徒自身がお互いを思いやる「怒」の心を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年部と健康相談部との連携を強化することで、兆候を見逃さず、職員の共通理解のもと適切に対応する。</li> <li>学校評価アンケートにおいて悩みや相談への対応の項目の平均を3.0以上とする。</li> <li>職員研修を年間3回実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康相談部において、気になる生徒への指導並びに支援体制について、運営委員会(学年連絡会)を通して周知することで、組織的な対応を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年部会で行われる生徒情報交換の情報を、健康相談部で集約し、月1回の運営委員会で情報共有することができた。</li> <li>学校評価アンケートにおいて、生徒保護者職員の平均は3.3であった。</li> <li>職員研修は2学期に企画したが実施できなかったため、計2回であった。</li> </ul> 【学校評価アンケート】 13悩み相談 (生)3.5(±0) 22人権教育の視点からの教育環境の構築(職)3.3(+0.1)
地域連携(防災)	防災教育の推進	熊本地震を教訓に防災教育の充実に学校総体として取り組む。危機管理マニュアルに取り上げた各種災害や事故防止の職員と生徒の意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>想定外の災害に対しても冷静かつ安全に行動する姿勢を身に付ける。</li> <li>「避難所協力」において、熊本県、熊本市、地域の自治会と連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年3回の避難訓練の実施</li> <li>熊商危機管理マニュアルの更新</li> <li>校内組織編成による避難所運営への協力体制及び実際の運営上の課題解消に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>AED使用及び心肺蘇生法講習においては、「心臓マッサージの重要性を再確認できた。避難訓練では、火災発生通報から生徒1000名程度の点呼完了まで10分弱であった点は評価できる。今後も避難経路や行動の指示を的確に行って災害時の安全かつ迅速な行動に備えさせたい。</li> </ul> 【学校評価アンケート】 安全対策(生)3.6(±0)(保)3.4(±0)(職)3.5(+0.1)

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題 学校評価アンケート(4件法) 授業評価アンケート(4件法)熊商デパートアンケート 100点法
大項目	小項目					
地域連携(熊商デパート)	「総合的な探究の時間」と連携した「キャリア教育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感を持ち、協働しながら課題を解決できるビジネスリーダーを育成する。</li> <li>自己の在り方・生き方を考えながら地域の課題を発見し、解決していくことで進路目標の実現を目指す。</li> <li>ビジネス分野の実践力を育成するため、STEAM教育の視点を取り入れ、地域との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力事業所をはじめ、多くの事業所について調査することで、業界、業種、職種それぞれの特徴や現状、課題を理解するとともに、自らの適性を知り、将来の職業選択に備える。</li> <li>事業所・地域について、また事業所や地域の課題を発見し、解決が熊商商業高校及び熊商デパートに求めることについて、招聘授業をはじめとする各種体験的活動をとおして理解する。</li> <li>協力事業所や地域の協力を得て、商品開発やイベント等の企画運営に創造的に関わることとおして、これからのビジネス社会に求められる実践力の基礎を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「中心商店街体験学習」として実地調査を中心とした、各種活動を実施し、商店街の実態を多角的に学習する。</li> <li>熊本県内を市町村でエリア区分し、クラスごとに1エリアを担当、調査のための1日バスツアーの実施を含め担当エリアの魅力を発見し、発信する活動を行う。</li> <li>オリジナルゲームづくり体験学習として、協力事業所の商品や事業所を紹介するボードゲーム、カードゲームを企画・制作し、協力事業所の了承後商品化する。</li> <li>担当する事業所の取扱商品等について調査し、調査したことをまとめ、発表する活動を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「中心商店街体験学習」(1年)約300店舗の見学やインタビューを行い、報告書にまとめた。</li> <li>「バスツアー」(2年)県内を9地域に分け、クラスがそれぞれ担当地域から協力事業所を誘致した。バスツアーの中で事業所訪問が実現したクラスもあった。</li> <li>「オリジナルゲーム作り」(3年)自由な発想でたくさんユニークなゲームの試作ができたが、商品化までは実現しなかった。</li> <li>2年生については地域から探究して事業所を誘致したことで、商品や事業所の知識が深まり、観光甲子園にも出品したクラスもあった。熊商デパート全体を通して、生徒が主体的に活動する場面が増えた。</li> <li>【熊商デパート来客者数】 1万3000人以上</li> <li>【熊商デパートアンケート】 熊商デパートを通して、自己の成長を実感したか。(生)82.9(+1.3) 働くことの意味や大切さ、責任感をもって業務に取り組めたか。(生)81.4(+1.1)</li> </ul>
	地域連携(コミュニティスクールなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の伝統を継承しながら、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させ、地域とともにある学校づくりを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校運営協議会」において、具体的な取組等の研究を進める。</li> <li>地域の商店街の活性化を題材とした研究を進める。</li> <li>親になるとはどういうことか、また、地域や社会の一員として次世代を育てていくために何ができるかを考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水前寺参道商店街の活性化についての協議や地域イベント(砂取小夏祭りや水前寺にぎわい祭りなど)への参加を通して、地域との連携を深めるとともに、水前寺を中心とした地域活性化に貢献する。</li> <li>幼稚園実習に替わる講演会を保育分野の単元計画に位置づけて、幼児教育の重要性や親の役割について理解を深める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>予定していた地域イベントに参加した。水前寺公園周辺を題材とした取組を行うことができた。</li> <li>「幼児教育と子育てを考える講話」として、神水幼稚園長 平野正子先生より3年生6クラスに講話を実施していただいた。講話を通して、子供の発達について知り、親の責任について考える貴重な機会となった。また、生徒は一人ひとりがかけがえのない存在であり、高校時代に健康な身体と心をつくるのが次世代を育む礎になるという温かなメッセージをしっかりと受け止めていた。</li> </ul>
商業教育の充実	商業の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得への明確な目標を持ち、それに向かって主体的に学習に取り組む意欲が見られる。将来のキャリア形成にどのよう役立つかを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自ら設定した目標のもと、授業や商業系部活動単位で商業に関する上級資格も含めて資格取得に取り組み、その達成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクティブラーニング型の授業実践</li> <li>ICT(Chromebook等)の活用</li> <li>検定前学習会の実施(簿記・情報処理)</li> <li>高大連携プログラムの活用(資格取得の充実)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の研究授業を実施し、うち1回は指導主事による参観や授業評価にて班別協議を行い職員全体の指導力向上を図った。</li> <li>各授業においてChromebookを活用し、配信や調査、情報収集、作成等多岐に渡り活用している。</li> <li>1月簿記検定1級、情報処理検定1、2級の合格率が昨年度より約10~15%上昇し検定前学習会は直前の指導として一定の効果があった。</li> <li>高大連携プログラム(日商簿記)を本格導入し(11月と2月に検定を受験)、検定に対するニーズの高まりが見られた。</li> <li>【学校評価アンケート】 23 商業分野の知識・技術習得(職)3.3(-0.1)</li> <li>【資格取得】 簿記検定、情報処理検定1・2級 昨年比合格率10~15%増</li> </ul>
	ビジネスに対する心構えや理念を身に付け、ビジネスの諸活動を主体的・合理的かつ協働的に行う能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスの諸活動を学ぶために、実践的な学習機会(体験学習)が提供されている。</li> <li>学校行事である販売実習を通して、ビジネスに対しての実践力を高める。</li> <li>販売実習では、1万人以上の来客をめざし、商業教育のPRの場とする。</li> <li>学科ごと強みを活かした取り組みの実践。</li> <li>学校評価アンケートで、生徒・保護者の肯定的な回答を80%以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な学習を取り入れながら企画力・表現力の向上を図り、課題を見つけ自ら解決する能力を育成する。</li> <li>学校行事である販売実習を通して、ビジネスに対しての実践力を高める。</li> <li>販売実習では、1万人以上の来客をめざし、商業教育のPRの場とする。</li> <li>学科ごと強みを活かした取り組みの実践。</li> <li>学校評価アンケートで、生徒・保護者の肯定的な回答を80%以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「マーケティング」分野体験学習の企画実践(企業見学)</li> <li>熊商デパートにおける、協賛事業所との連携(各クラス)</li> <li>課題研究等における外部講師による専門性の高い学習の実現や商品開発の充実</li> <li>企業との連携、講演会、専門学校等による特別講義の実施、異文化交流(各学科)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年商業科「マーケティング」で外部講師招聘授業や3月に学習成果発表会を企画するなど体験学習や職業観の育成を図った。</li> <li>熊商デパートでは、長年の協力企業との連携、2年生は県内各地域ごとに新しい企業との連携を行い、1万人以上の集客のもとビジネスに対する実践力を高めた。</li> <li>課題研究等における外部講師による専門性の高い学習の実現や商品開発の充実</li> <li>企業との連携、講演会、専門学校等による特別講義の実施、異文化交流(各学科)</li> <li>起業者育成、金融教育、商品開発、ビジネスマナー等多いものは10回以上外部講師による授業を行い専門的な内容を学習した。商品開発では、カタログギフトの活動を通し学校間との連携や、企業様に対するプレゼンを生徒が行う等多くの学びが見られた。</li> <li>会計科の外部講師による上級資格指導、国際経済科の異文化交流事業(英語科主催)、情報処理科は基本情報技術者試験に複数名合格を果たし、各科の特徴的な資格取得や行事を通して、専門性や実践的な学習機会を提供できた。</li> <li>【熊商デパート来客者数】 1万3000人以上</li> <li>【熊商デパートアンケート】 商業の授業で学んだことを活かして業務をすることができた。(生)79.1(+0.6)</li> </ul>